

暖冬と言われた今年、いつもの年より季節がすすんでいます。3月3日ひな祭り。当町では1ヶ月おくれの4月3日に多くおこなわれます。かつて（昭和20～30年代）は、土びなが飾られていました。それはお姫様、武者姿等多彩なものでした。美濃焼の産地、東濃地方から行商の方が売りに来られた記憶があります。それに菱餅、ひなあられ、ひな膳を供え、3日の午後4時過ぎにはおひな様、お供えを片付ける習わしで、片付けが遅いと娘の婚期が遅れると親は心配したものです。

この日は、おひな様を観て近所の家々を回り、供え物を分けてもらって袋にためて楽しんだものです。これを「がんどうち」と言います。「がんどうち」とは強盗（がんとう）を打つの意味で、ひな壇の餅や菓子を盗み食うの意味も。今、こんな行事を子供会の行事として復活した地域もあります。

さて、東日本大震災から5年。あの日から私たちの生活はどのように変化したのでしょうか。被災者の人達には大きな変化がありました。震災の被害の無い人達の生活は何も変わらないかもしれませんが、しかし、心の在り方は大きく変化したはずです。「絆」の言葉の重みは今も続いています。震災の教訓を生かしていくことが、私たちに出来ることではないでしょうか。

平成28年3月1日

横家敏昭



地域の人が家に眠っている土雛を持ち寄って作る雛飾り（赤河・日向地区）

2月は1年で最も寒い日が続くと思いきや、暦を見る限り春の字が躍る季節です。4日の立春を過ぎると春。暖冬と言われる今年ですが、我が家でもマイナス10度になる朝もたびたびです。

2月は初午行事があります。旧暦2月の初めの午の日をさしますが新暦でする家もあります。昭和の時代、今から30～40年前まで白川町でも養蚕が盛んでした。初午と蚕の関係は昔から伝統的に深いものがあります。故に初午の行事の大部分が桑や蚕に関係したことが多いようです。昭和の頃まで我が家でも「初午団子」をつくっていました。この団子の形状は大小さまざまであるけれど、すべてお蚕の繭の形に握り、樫などの木の枝に刺して、蚕神に供えました。この団子は米粉でつくられ、囲炉裏で焼いて食べた記憶があります。そんな蚕業も今は形もありません。成人式に出席して艶やかな振り袖を目にして昔を思い出しました。

ただ、今でも町内で白川まゆばな工房の皆さんの手により工芸品として残っています。私も蚕業改良指導員の資格を有しています、無形文化財かも。

論語に「意なるなかれ、必なるなかれ、固なるなかれ、我なるなかれ」とあります。意なく、必なく、固なく、我なし。勝手な考えは危険この上なく、無理押しをすると信用をなくし、執着はいらぬ反発を招き、エゴイズムは孤独を引き寄せます。自己反省です。

平成28年2月1日

横 家 敏 昭



明けましておめでとうございます。すがすがしい新春をお迎えのことと思います。

日本では新しい年をきれいな環境で迎えるために、大晦日までに大掃除を行います。これは6月末と大晦日に2度実施される「大祓い」という神道儀式に由来しているといえます。

あなたにとって、平成27年はどんな年でしたか。もし当たり前に1年を終えることができたということであれば、それは奇跡です。アインシュタイン博士は「私たちの生き方には2通りしかない、奇跡など全く起こらないかのように生きるか、全てが奇跡であるかのように生きるかである」と。もう奇跡は起こっています。

もう今年の抱負は決めましたか。この抱負を実現するためには、それを紙に書いて毎日目のつくところに貼っておくことだそうです。それだけで抱負が実現する可能性が高まります。人は毎朝目にするものに、自然と意識が向くようになります。それと同時に、目標を実現するために必要な情報にも敏感になります。流れ星に願いをかけられるくらい思い詰めること。

今年も町政の運営には、町民の皆様の「みんなでやろまいか」のご協力なくしてできません。なお一層のご支援とご協力をお願い申し上げ、そして町民各位のご多幸をお祈り申し上げます。

平成28年1月4日

横 家 敏 昭



白川町の最高峰ニッ森山（標高 1223m・白川町黒川と中津川市境）頂上からのぞむ初日の出
＝平成 28 年 1 月 1 日撮影

いつも12月になると思う、月日の流れの早さ。そこで月日は流れるものでなく、積み重なるものだ。50歳には50年の、60歳には60年の経験の積み重ねがあります。

日本の人口構成は、今後75歳以上の後期高齢者の占める割合が急激に増えます。マスコミなどの報道をみていると、我々高齢者が諸悪の根源であるかのような扱いです。そうでなくとも厄介者ともとれます。

今、国をあげて健康寿命を伸ばす運動を展開しています。健康な老後は誰もが望むことであります。「80歳になっても現役で働く人のことをあなたはどのように感じますか」の問いに、欧米人の多くは「お気の毒に」と捉えるそうです。しかし、日本人の多くはそれを「うらやましい」と捉えます。この違いは、欧米人と日本人の「働く」の価値観の差にあります。まず、欧米人にとっては、働くことは神から与えられた罰という考え方があります。高齢社会を生きる上で、日本人の考え方が世界をリードするのではないのでしょうか。

現実、白川町のお年寄りも、生涯現役を合い言葉に老後を楽しんでいらっしやいます。また、町では『聖人式』と銘して80歳になられる方のお祝いをしています。今年も12月13日に多くの町民のご協力のもと開催予定です。80年の経験を町づくりに活かさせていただきます。

平成27年12月1日

横 家 敏 昭



10月1日、かねてから交流のある宮古島市の市制10周年記念式典にお招きいただき、10年ぶりに宮古島を訪問させていただきました。毎年青少年の海山交流事業として8月に我が町の子も達が宮古島の海を体験し、1月には宮古島の子も達は雪を楽しみに来てくれます。お互い無いものばかり、初体験の感動を文に綴って、それを読むのが楽しみです。また子ども達ばかりでなく、宮古の方々のお人柄に感動させられました。私的にも知人があります。私の父親が終戦時宮古島の守備隊に配属されており、その時のおつきあいが今も続いております。

岐阜県において、皇太子殿下をお迎えして全国育樹祭が開催されました。その折り、白川町は表彰の栄に輝きました。その上、皇太子殿下より直接のお声がけをいただきました。その時、故辻宏先生とパイプオルガンのお話をいただき、そして30年来白川町民が続けている皇居宮中三殿への薪の奉納のお話をさせていただきました。

白川町は長寿の町でもあります。100歳以上の方が15名いらっしゃいます。全国平均の4倍にもなります。県下一番です。先輩の皆さんが福祉と健康の町づくりを目ざし、努力された結果だと思えます。国家の品格という書物があります。今年2月白川町で講演いただいた藤原先生の著作ですが、国ばかりでなく町の品格というものも存在すると思えます。それは美しい田園、山村の風景というものの中にも感じる事ができるといいます。それをそこに住む人が、どのように守り後世に伝えていくか、また、その中に地域の道德感までが出来るものでしょう。それを宮古島でも感じました。皇室にも感じました。100歳の方にも感じました。

平成27年11月1日

横家敏昭



(左)育樹祭前夜の懇親会にて皇太子殿下にお声をおかけいただいた瞬間が新聞に掲載【10/11中日新聞】
(右)宮古島市を訪問した際の空港でのお迎え

私の若い頃からの趣味は、ドライブです。自動車免許を取得してからは、毎年長距離ドライブを楽しんでいます。もう半世紀近くなるわけです。その間の道路の変遷には、目を見張ります。昭和40年代からですので当たり前のことですが。東北から九州、四国まで四国へは、宇高フェリーを利用しました。夜中の便に乗れるよう当時出来たばかりの名神高速道と国道2号を宇野まで夜通し走り、屋島で朝を迎え、四国一周したり、八幡浜から九州臼杵に渡り帰った記憶があります。近年また訪ねても地方の国道、特に山間地は昔とほとんど変わりません。その風景も昔の写真のままです。少し違うのは、家は建っているが、生活の気配がしない所が多くなったことです。

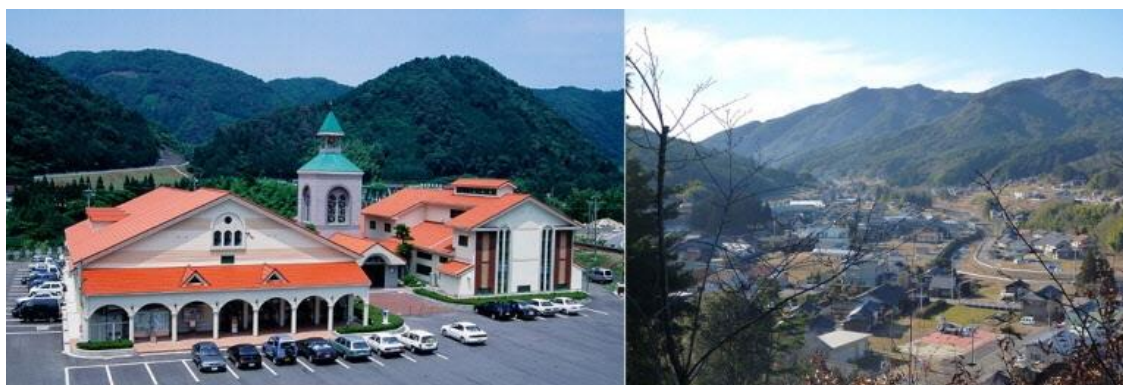
今、全国に高速道路網が整備され、風景を眺めながらのドライブは期待出来ませんが、道路網の整備から立ち後れた多くの地方にこんな風景が広がっています。ほっておけば自然に帰るというが、一度手が加えられた自然が本当の意味で自然に帰れるか疑問です。

記録的な大雨等という言葉が常套句になった今日、都市生活の安心、安全の鍵を握る中山間地における国土保全対策は重要であり、河川の下流域での土砂の堆積は堤防のかさ上げだけで対応しきれなくなります。

私たちの白川町は、水源の里として、美味しい水の供給だけでなく、治山にも心をくだき国土保全に努めています。しかし、これも過疎化が進む町に住んでくれる人たちだけでは、限界があります。国民全体の問題であり多くの人たちに理解を求めます。

平成27年10月1日

横 家 敏 昭



(左) 道の駅美濃白川 (右) 秋深まりつつある黒川地区

我が町にある「大山白山神社」は、全国に 2700 社以上ある白山神社の中でも有力な社と聞きます。今からおよそ 1300 年前、泰澄大師が開山したと伝えられる白山。白山信仰の美濃禪定道の重要な拠点であり、加賀白山の遙拝場として白山信仰を大いに広めたといわれています。

現在、天然記念物に指定された杉木立の中、社殿があり、その天井は絵天井で神仏習合の往時をしのばせます。山頂からは、加賀白山連峰は無論、御嶽、乗鞍、中央アルプスの山々や伊勢湾を望むことができ、パワースポットとして密かな人気があります。

また、美濃白川茶栽培の起源も大山白山神社にあるといえます。神の宿るお茶、白川茶です。

ちなみに私事ですが、私の先祖は、同じ白山信仰の重要な社、美濃須原白山神社の神官の出だと聞き及びます。

ぜひ大山白山神社へお越しください。

9月には落ち鮎の季節。体に卵をいっぱい持った海へ下ろうとする鮎をぜひご賞味ください。その他、秋の味覚が野菜村チャオに並びます。

平成 27 年 9 月 1 日

横 家 敏 昭



(左)大山白山神社拝殿 (中)拝殿絵天井

(右)天然記念物の大杉(周囲 8.9m、高さ 36m、樹齢 1200 年以上)

昭和43年（1968）8月18日未明。天地を切り裂く雷鳴と篠突く雨（時間雨量100ミリ）は加茂郡を中心とする中濃、東濃地方をおそった。そして土砂崩れ、土石流が白川町の国道41号において2台の観光バスを濁流渦巻く飛騨川に押し流し、104名の尊い人命が失われた。日本史上最悪のバス事故「飛騨川バス転落事故」から半世紀近く経とうとしている。現在その地には、犠牲者を弔うため慰霊碑が建立されている。天心白菊の塔であり、今も多くの旅人の涙を誘っている。

この事故は多くの教訓を残し、道路防災点検や雨量に伴う事前規制の制度化につながった。毎年、白川町仏教会による慰霊の法要が8月18日に営まれているが、半世紀という時の流れは、事故を風化しようとしている。

近年の異常気象はその教訓を最も必要としていると思う。那智勝浦の先輩町長は、「愚者は経験に学ぶしかない、同時に気象というものが、経験では読み切れないことを知っています。今は何も無いときから、避難所の鍵を開ける。100回空振りでも1回当たればいい。その感覚で勧告を出す。」と。

一人ひとりの命を守る責任は行政にあるのではなく、最終的には個人にある。国民の自助を促す一文が、避難情報を出す新たな判断基準を示した今年4月の政府のガイドラインに盛り込まれた。ガイドラインは首長に空振りを恐れず、避難勧告を発令するよう求めたのが特徴だ。

いずれにしても、日頃から備えに怠らないよう、自身に気合いをいれた。

平成27年8月1日

横 家 敏 昭



（左）平成23年の集中豪雨の際の白川の様子・役場前 （右）普段の様子

7月の白川は、アウトドアに絶好な季節が始まります。

近年、その志向は大きく、自然を求めて若者から高齢者の方まで多くの方々に白川町にお越しいただきます。大自然に触れることで、人間も自然の一員であることに気づかせてもらえ、リフレッシュできると思います。

一方、自然には危険も潜んでいます。安心、安全に自然とふれあう、そんな場所の提供を、白川町では心がけ、皆様のご来町をお待ちいたしております。

クオーレふれあいの里は、「冒険心をくすぐる大自然の里」と銘打ち、連日多くの人で賑わっています。川遊びエリア、高原・山遊びエリアがあり、キャンプ場、コテージ、オートキャンプ場、芝の広場、魚釣り体験等々すべてのメニューが用意されています。四季を通して堪能いただけると思います。

町内には他にも、佐見地区に「ふるさと体験村」があります。コテージ、キャンプ場があり農業収穫体験もできます。コテージはいろりを備え、ご家族、団体でのご利用をお勧めします。特に、佐見川での川遊びは人気のスポットです。

こんな白川町です、移住定住の体験空き家もあります。年貸しの農園付きコテージもあります。ぜひ、お問い合わせください。

暑い夏、お体お気を付けください。

平成27年7月1日

横 家 敏 昭



川岸を色取る岩ツツジは、樹齢 100 年を超えるものもあるそうです。岩の割れ目に生えていますから十分な栄養ありません。したがって、何十年経っても小さな株のままです。しかも大水（洪水）によって枝葉は流されます。それでも生き続けて真っ赤な花を咲かせ我々を楽しませてくれます。自然の中によく手入れされた庭園があるようです。今、その岩ツツジが満開を迎えようとしています。白川町の花でもあるこのツツジを是非ご覧ください。

また、その川は鮎漁の季節ともなりました。中濃五色川。白川、赤川、黒川、黄川（飛驒川）、青川（佐見川）がその名のとおり五色の川の色で特色ある川の風景をつくっています。豊かな森林が育む木材（東濃ひのき）とともにそこから生まれる水と空気が、岩ツツジを育て、また美味しい鮎を育てます。

平成 27 年 6 月 1 日

横 家 敏 昭



白川茶は、冬期マイナス10℃を下回る地域で栽培されています。したがって、新茶の摘み取りは八十八夜を大きく過ぎた5月中下旬が最盛期になります。厳しい冬の寒さに耐え、一気に芽吹きます。

白川茶の栽培の歴史は古く、奈良時代、地元の大山白山神社を創建した泰澄大師がお茶の種子を持ち帰り、白川広野の里人に茶の栽培を呼びかけたのが始まりとされています。慶長14年（1608年）に実施された検地の記録には、上田村に茶原の記事があり、年貢としてお茶を納めていた記録があります。

このように長い歴史のある白川茶は、今もその特性を生かし他産地には見られない歴史風土の中、多くの人々に愛飲されています。近年、消費者ニーズに合った、飲用、食用にも対応して大きく変化もしつつあります。

新茶の期間中、様々なイベントも計画されています。本場白川茶を是非白川の地で味わってください。お待ちいたしております。

平成27年5月1日

横 家 敏 昭



4月白川町は、週末、町のどこかでピーヒャラ、ドンドンと笛や太鼓の音が山々に響きます。満開の桜の下、豊年祈願をこめた祭事と、杵ふり踊り、神馬、山車獅子舞、民謡踊りなどそれぞれの地区ごと伝統ある催事が奉納され、老若男女で賑わいをみせます。是非おこし下さい。

白川町役場も新しい体制でスタートしました。町民の皆様には、白川町に住んで良かった、生まれて良かったと感じていただける町づくりを目指したいと考えております。それには、職員と町民の皆様との信頼関係の構築が何より重要であると思っておりますので、なにとぞご指導お願い申し上げます。

今年は地方創生で最も重要な年であると認識しております。「町民みんなでやろまいか」を掲げております。皆様のお力添えを是非にお願い申し上げます。

今年から地域おこし協力隊も総数8名をもって、白川町の創生に協力してくれます。全国でも最大規模になります。地域の宝を掘りおこし、磨き上げたいと思います。地域おこしとは、住民が豊かになることと考えます。経済的ばかりでなく、文化的、社会的にもです。

春の桜に浮かれていられないのは、残念です。

平成27年4月1日

横 家 敏 昭



水戸野のしだれ桜（岐阜県天然記念物・樹齢約400年）